

月刊島民

中之島

Vol.72 2014 7/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

手塚治虫が歩いた道。



ナカノシマ大学

「島民のための盆踊り練習会」

&

「古地図ウォーカー、
大阪をゆく」

申し込み受付中!

手塚が描いた中之島。



たうら・のりこ 1978年大阪市生まれ。京都精華大学卒業。在学時代に阪神間の手塚治虫ゆかりの地を記した研究誌「虫マップ」を発表。改訂を重ねながら様々な媒体で発信し続け現在に至る。近年は大阪を中心に、手塚治虫ゆかりの地をめぐるまち歩きツアーやイベントを主宰。<http://www2.ocn.ne.jp/~norimi/mushimap.html>

「マンガの神様」と呼ばれた手塚治虫は、およそ70年前、中之島にあった大阪大学付属医学専門部に通っていた。また、手塚は幼少の頃から家族で何度も中之島へ足を運んでおり、実際、作品にもたびたび中之島周辺のスポットが登場している。そんな手塚の足跡をまとめた「虫マップ」を制作した田浦紀子さんは、「中之島を歩けば手塚作品の歴史がたどれてしまう」と太鼓判を押す。手塚が歩いた道をなぞりながら、中之島との関係を考察してみよう。

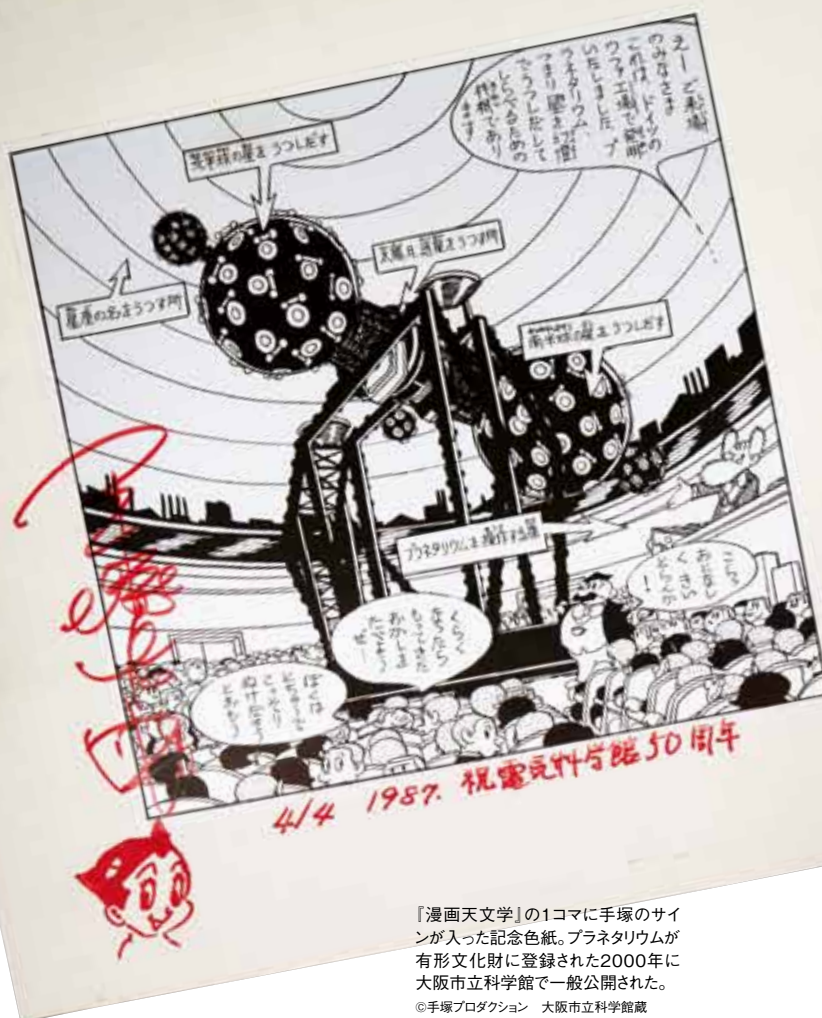
企画執筆／田浦紀子 協力／手塚プロダクション

手 塚治虫はエッセイ「懐かしのプラネタリウム」（『手塚治虫エッセイ集』6巻所収）の冒頭でこう語っている。

淀屋橋交差点の角のビルに石原時計店という立派な店がある。これは戦前心斎橋にあった老舗で、現在の社長の石原美氏は、多くの小学校のクラスメートだった。彼がぼくを星の世界へい



『マンガ 手塚治虫の昆虫つれづれ草』
小林準治・著（講談社）
©手塚プロダクション



『漫画天文学』の1コマに手塚のサインが入った記念色紙。プラネタリウムが有形文化財に登録された2000年に大阪市立科学館で一般公開された。
©手塚プロダクション 大阪市立科学館蔵



左／手塚が月イチで通った電気科学館。
右／昭和15年の館内案内。



ざない、プラネタリウムと結びつけてくれたのである。

昭和12年（1937）、四ツ橋に大阪市立電気科学館が開館。その目玉となったのが日本初のプラネタリウム「カール・ツァイスⅡ型」である。

手塚治虫が電気科学館へ行くきっかけとなったのが小学校の同級生、石原実さん。現在、淀屋橋にある「石原時計店」の社長で、小さい頃から大変な科学少年だった。

当時、四ツ橋から徒歩7分の心斎橋南詰に店があり、「今度近くに電気科学館ができたから」と誘われ、石原さんの父親に連れら

手塚少年を虜にした、アジア初のプラネタリウム。大阪市の立科学館 カール・ツァイスⅡ型プラネタリウム……『漫画天文学』

れて遊びに行ったのが最初。以来、手塚少年は天体に魅せられ、通いつめるようになった。プラネタリウムは少年の心に強烈な印象を残したのだから。手塚はのちに同機を『漫画天文学』（昭和32年・1957年）の中に登場させている。

また、電気科学館の会報誌『月刊うちゅう』（1985年7月号）にその思い出を寄稿。このことがきっかけで、再び両者の交流が始まった。

昭和62年（1987）4月4日、電気科学館50周年記念の手塚の講演会がプラネタリウムホールで実現した。講演中には、黒板に貼り付けられた模造紙にアトムイラストをサラサラと描いたそうである。

その2年後に電気科学館は閉館したが、手塚が魅せられたプラネタリウムは、後継施設である大阪市立科学館で展示保存されている。手塚治虫の人生とともにあった電気科学館の歴史は、中之島に受け継がれているのだ。

大阪市立科学館

今年でオープン25周年を迎える中之島のランドマーク。名物のプラネタリウムは2012年にリニューアルされたばかり。名物学芸員のサイエンスショーもお見逃しなく。☎06-6444-5656 9:30AM～5:00PM（展示場入場は～4:30PM）月曜休

<http://www.sci-museum.jp>



©手塚プロダクション 大阪市立科学館蔵



講演中に即興で描いたという気持ちよさそうに居眠りするアトム。もしや手塚もうたた寝経験あり？

『漫画天文学』

※『漫画生物学』
手塚治虫文庫全集
BT84（講談社）に併録

電気科学館では
プラネタリウム
解説担当でした。



「講演会は大盛況でした。手塚ファンはもちろん、著名人も駆けつけてくれた」と、50周年記念講演会を企画した加藤さんは当時を懐かしむ。

「きっかけは昭和60年（1985）に放送していた深夜テレビ番組の収録でした。手塚

テツカを知る島民の証言① 加藤賢一さん（元大阪市立科学館館長）

治虫自身が、大阪の思い出の場所を案内するという企画。昔よく来ていたらしいとは聞いていたものの、彼から直に聞くのは初めて。科学館の閉館も予想されていたので、当時の天文スタッフが「このチャンスを逃してはなるまい」と奮闘し、手塚の寄稿と開館記念行事での登壇実現にこぎつけました」

その頃の手塚の多忙ぶりは、世間にもよく知られていた。それでも、通いつめた場所のために一肌脱いだのだろう。

また、加藤さんは手塚の寄稿から、プラネタリウムを観に来る度に売店で買ったお菓子があったと知る。*宇宙時代の味。というキャッチフレーズをまとったその名も「プ

ラネタリウム」の正体は、戦前まで「千成一茶」という老舗和菓子店が製造していた長方形のクッキーだった。しかも、偶然にも当時電気科学館で働いていた青年の実家が、その銘菓を作っていたという縁もあった。

食料事情の悪化により販売休止となったが、戦後に洋風まんじゅう「プラネタリウム」として復活した。生まれ変わった銘菓を手塚に贈ったところ、感激した手塚から店主へ直筆の礼状が届いたというエピソードも残っている。

千成一茶
プラネタリウム1個220円
●大阪市都島区都島本通2-11-11
☎06-6922-2010



手塚の曾祖父も通った、幕末の志士を育てた学塾。

適塾……『陽だまりの樹』

蘭

学者の緒方洪庵によって開かれ、後期の名作『陽だまりの樹』の舞台の一つとなった適塾は、幕末の大坂にあつて多くの逸材を世に送り出してきた。手塚治虫の曾祖父・手塚良庵もその一人である。

急な階段を上って2階の奥へ進むと、塾生たちが過ごした大部屋がある。部屋の中の柱には刀傷があり、血気盛んな塾生たちの様子が思い浮かぶ。

塾生の人数が多かったために、一人あたり一畳分の面積が割り当てられるだけだったそうである。

福澤諭吉の『福翁

自伝』には適塾での生活の様子が書かれている。福澤が裸でいたところに洪庵の妻・八重が現れて赤面した話、難波橋の上から小皿を投げた話など。中には手塚良庵にまつわるものもある。福澤たちが仕組んだ遊女のニセ手紙に、手塚良庵がころりと騙されるというエピソードだ。



©手塚プロダクション



『陽だまりの樹』1巻
手塚治虫文庫全集
BT189(講談社)

ソードだ。これらを手塚は上手くアレンジして、『陽だまりの樹』の作品の中に取り入れている。

適塾

緒方洪庵が天保9年(1838)に開いた学塾。現在ある建物は重要文化財に指定され、洪庵が使ったオランダ語の辞書『ゾーフ・ハルマ』など貴重な史料のレプリカが展示されている。参観料260円(一般)。☎06-6231-1970
<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/about/tekijuku>



手塚治虫の曾祖父は
洪庵と共に蘭方医
として活躍しました。

テヅカを知る島民の証言②

川上 潤さん(緒方洪庵記念財団事務局長)

ちで描かれた「除痘館の想像図」が公開されている。緒方洪庵記念財団の川上潤さんはこう語る。

「今から9年ほど前、『陽だまりの樹』に描かれた待合室と診察室の二つをあわせたような構図で、緒方洪庵と手塚良庵が子供に種痘を施している様子の絵を描いてくれないかと手塚プロダクションにお願いしました。当時の医療器具や種痘の仕方など詳しい説明を求められ、少しずつ絵を描き進めていただき完成に至りました。絵の右上の扁額の字は洪庵と交流のあった漢学者・広瀬旭莊の漢詩より六文字を取り、種痘の活動によって子供たちが早死にすることがないように、という願いがこめられています。」

適塾より一筋南にある緒方ビルは、江戸末期に天然痘予防の普及活動の拠点となった除痘館があった場所だ。現在は幅広い診療科が集まったクリニックセンターだが、その4階には無料で入館可能な資料室があり、展示物から緒方洪庵の業績を知ることができる。その1階には『陽だまりの樹』のタッ



除痘館記念資料室

小中学校の校外学習や、史跡めぐりをする人向けの館内ガイドも受付中。適塾来訪時には、合わせて立ち寄りたい場所だ。☎06-6231-3257
http://www.klinik-ogata.or.jp/ogata_building/

毎日見ていた梅田の風景が、目に焼き付いていた。

梅田吸気塔……『ブラックジャック』



©手塚プロダクション



『ブラック・ジャック』3巻
手塚治虫文庫全集
BT60 (講談社)

ス テンレス板で囲まれた不思議なオブジェが御堂筋の北端に存在する。昭和38年（1963）、建築家・村野藤吾によって設計された梅田吸気塔だ。再開発著しい梅田の中にあつて、これだけが約半世紀の時を刻み続けている。

この吸気塔が、手塚治虫の名作『ブラック・ジャック』『アリの足』のラストシーンに登場する。小児麻痺の少年・光男が広島から大阪までの徒歩旅行の末、たどり着いたのがこの場所という設定だ。吸気塔の背後には、当時の社章がかけられた阪急ビルディング、阪急航空ビル、黒光りする富国生命ビルも描かれている。



梅田吸気塔

本来は梅田地下街の吸気用につくられたもの。ステンレス板をパッチワークのように組み合わせた姿は、梅田にあってなんとも異質。夜になるとライトアップされ、いっそう不思議なムードを醸し出す。

現在、阪急梅田駅はJRの北側にあるが、1970年頃までは阪急グランドビルあたりに駅があり、当時はここが大阪の玄関口だったわけだ。自宅の宝塚から大阪に出る際（大学時代は毎日）必ず通るこの場所は、手塚治虫にとってよほど思い入れが深い場所だったのだろう。同じ場所が『アドルフに告ぐ』や『どついたれ』などにも登場する。

その翌日、夏日の照りつける廃墟の御堂筋を一台の軍用車が走り去った

後期の名作『アドルフに告ぐ』の終盤は堂島が舞台となっている。神戸で被災した主人公・峠草平は大阪の軍人・本多大佐を頼り、彼の手配で妻の由季江を堂島にあった阪大病院に入院させる。手厚い看護を受けるも、妻は身ごもったまま植物状態に。その年の8月15日、終戦を迎える。由季江は帝王切開で娘の由を出産。峠は男手一つで娘を育て、時は流れ大団円。

『アドルフに告ぐ』に描かれた堂島



の阪大病院は、実は手塚治虫自身が医学を学んだ学舎でもあった。昭和20年（1945）、手塚は中之島にある大阪大学付属医学専門部に入学。医学の道を志しながら漫画を描き続ける。自伝漫画『がちゃばい一代記』には、授業中に漫画を描いて教授の大目玉を食ったという阪大時代のエピソードが描かれている。そして卒業後は1年間、阪大病院でインテリ

ン生活を送った。



『アドルフに告ぐ』3巻
手塚治虫文庫全集
BT72 (講談社)

堂島川を眺めながら、漫画と医学を学んだ大学時代。

旧阪大病院……『アドルフに告ぐ』



©手塚プロダクション

大阪大学中之島センター

大阪大学の情報発信基地として2004年に大阪大学医学部跡に誕生。「平成の適塾・懐徳堂」とうたう通り、公開講座やイベントには知的好奇心あふれる人々が駆けつける。<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/index.php>



マンガ家としての スタート地点。



大正11年(1922)竣工の重厚な社屋は、「大毎」の拠点として名を知られた。堂島のランドマークだった。



『マアチャンの日記帳』
※『新宝島』
手塚治虫文庫全集
BT46(講談社)に併録

毎日新聞大阪本社

四つ橋筋に面して建つ堂島アバンザ。ここはかつて毎日新聞大阪本社があった場所だ。正面には旧社屋の玄関ポーチがモニュメントとして設置されている。手塚治虫の漫画家生活はここから始まった。手塚治虫のエッセイ『ぼくはマンガ家』によると、隣家に住む女性が当時、毎日新聞に勤めていて、『毎日少国民新聞』の編集長・程野繁夫氏を紹介したことがきっかけ。昭和21年(1946)元日より、デビュー作『マアチャンの日記帳』の連載が始まった。この時、手塚治虫は弱冠17歳。連載は当初1ヶ月の予定が3ヶ月に延長され、好評を博した。中之島にある大阪大学付属医学専門部に通いながらの漫画家生活だった。

「マンガの神様」の足跡。

作品に登場する場所以外にも、ゆかりの場所が中之島にある。その足跡を追ってみよう。

幼なじみが営む
老舗が淀屋橋に。



上／石原さんがモデルの「金三角」。
下／半ズボン姿で虫取り網を構える、
小学生の手塚治虫と石原さん。



石原時計店

創業160年余りになる関西屈指の老舗時計店。時計や宝飾品のほか、当時の日本では製造できなかった写真機や楽器などを輸入・販売した。戦前は心齋橋で営業していたが、昭和39年(1964)、淀屋橋南西角の石原ビルディング1階に移転し、現在の石原時計店へと継承されている。前にも触れたように(P2)、現社長の石原実氏は、手塚治虫と池田師範附属小学校時代の同級生。小学校時代に貸した平山修次郎の著書『原色千種昆虫図譜』が手塚を昆虫の世界へいざなうきっかけとなった。

京阪本線

適塾

除痘館
記念資料室

北浜駅

京阪電車中之島線

土佐堀通

同窓会で
直筆イラストを
もらいました。



テヅカを知る島民の証言③

石原 実さん(石原時計店社長)

手塚マンガに登場する多彩なキャラクターたち。同じキャラが名前を変えて違う作品に登場する。これを「スターシステム」と呼ぶ。その一人、恰幅のよい悪役スター「金三角」のモデルと言われているのが石原実さんだ。
「昭和32年(1957)、僕の香港出張中に手塚くんが店を訪ねてきたんですよ。当時は葉巻を吸っていてね。そのエピソードが金三

角につながったみたいです。小学校は6年間クラス替えがなくて、仲が良かったからモデルにしやすいからでしょうか。他にもモデルはいて、頭の上にローソクを立てたアセチレン・ランプのモデルは、同じく同級生の木下平八郎くんです」。

なるほど、それで金三角は「葉巻を吸う香港マフィア」とう設定というわけだ。『鉄腕アトム』『十字架島の巻』から後年の『アドルフに告ぐ』まで、幅広く活躍するキャラクターのモデルは実は「島民」だったのだ!

ファン垂涎、レア本充実の手塚棚。

ジュンク堂書店 大阪本店

堂島アバンザ1階の奥に広がる[ジュンク堂書店 大阪本店]のコミック売り場。西側入口からすぐの場所に、マンガ家の名前で分類された“巨匠棚”がある。手塚治虫コーナーには、シリーズものの新装版や全集がずらり。場所柄スーッ姿の客が多く、「50～60代の男性が、大事そうに『鉄腕アトム』や『火の鳥』の化粧箱入り愛蔵版をレジに持って来られます」と、コミック担当の大原ゆかりさんは話す。この4月に増床し、他では見かけない豪華な大型版も並ぶようになり、懐に余裕がある手塚ファンを通わせているようだ。「若い女性にはリメイク版の『ヤング ブラック・ジャック』が人気ですね」。年齢層や作品、手塚ワールド入門の間口は広い。☎06-4799-1090



リーガロイヤルホテル

昭和61年(1986)4月22日、10本もの連載を抱えたスケジュールの合間を縫って、手塚は中之島を訪れている。ロイヤルホテル(現リーガロイヤルホテル)主催の文化講演の登壇者として招かれたのだ。当然、原稿を待つ各誌編集部からは大ブーイング。手塚は締切直前で気が気でない担当編集者を説き伏せ、アシスタント数名と中之島へ。羽田空港行きの車には担当編集者も同乗し、一心不乱に描く手塚と二人三脚で黙々と作業したという。ホテル到着後はアシスタントも参戦。客室は即席の仕事場となった。そんな危険な綱渡りをしてでも、中之島に来たかった手塚治虫。きっと手塚にとってもファンにとっても、凱旋講演のようだったのだろう。



多忙の合間を縫って
「凱旋講演」を。

旧阪大病院

堂島川

渡辺橋駅

大江橋駅

大阪大学
中之島センター

大阪市立
科学館

中之島駅

肥後橋駅

淀屋橋駅

手塚家御用達の
文化発信基地。

朝日会館と朝日ビルディング

手塚が追い求めたアニメーションの原点は中之島にある。幼少期、家族と共に訪れた大阪朝日会館で漫画映画をよく観ていた。朝日会館は大正15年(1926)に開館、新聞印刷用の黒インクを塗り、金縁のガラス窓という大胆なデザインだった。常に一流の音楽、演劇、映画が上演され、大阪の近代文化の中心だった。その東隣りにあったのが、朝日ビルディング。昭和6年(1931)竣工、ステンレス・スチールなどの金属パネルを外装に使用し、最上階に曲面ガラスを使うなど、こちらも斬新さでは負けていなかった。当時は喫茶室や高級レストラン「アラスカ」があり、手塚家もここで食事をした後に映画を観に行ったという。



上／当時の絵葉書より。手前が朝日ビル、奥が朝日会館。右端にタイビルも見える。左／朝日会館竣工時のパンフレット。映画が上映されていたホールは、エジプト調の斬新なデザインだった。写真提供／朝日新聞社

手塚を育てた、中之島と宝塚の「教養」。

長崎 手塚治虫と中之島、意外に接点が多くて驚きました。子どもの頃から来ていたんですね。

田浦 5歳から24歳まで（1933～1952年）宝塚に住んでいて、中之島には幼少期から大学時代にかけてよく足を運んでいました。朝日会館へ家族そろって漫画映画を観に来たのが8歳の頃。そこでデイズニーなどの海外アニメーションと出会ったそうです。

長崎 朝日会館は、手塚の生い立ちを知る一つのキーワードかもしれません。戦前の朝日会館は、今のフェスティバルホールにミニシアターや美術館を組み合わせたような役割を備えていました。当時の「一流」と言われるような

音楽や映画を上演したり、展覧会を開催していた、いわば先端的な文化の発信地です。アニメーションも一種の先端文化として中之島にあったということ。

手塚治虫の両親は情報の中心地だった朝日会館に子どもを連れてくることで、「楽しませながら、学ばせる」教育を目指していたのかな。

田浦 漫画や映画好きは、父親の影響です。父親は北浜に本社があった住友金属工業に勤めていて、宝塚から大阪まで通っていたから、中之島はそんなに遠い街ではありませんでした。母親は宝塚歌劇のファンで、その影響が後の「リボンの騎士」に繋がりました。

長崎 手塚の両親は、まさに僕が研究している「教養主義」の影響を受けてきたアッパーミドル（中流階級の上位層）の典型ですね。手塚家が住んでいた

た宝塚は、阪急グループの祖である小林一三によってレジャーランドや宝塚大劇場などの商業・文化施設が置かれ、その周りには閑静な高級住宅地がつくられました。こうした初期の田園都市に住んだ人々は、近代化や西洋化を歓迎し都会的なものに憧れ、クラシック音楽を好むなど「教養」に結びつく文化を求める傾向にありました。手塚の両親もそうではないでしょうか。戦前の中之島は、関西で一流の西洋文化に触れられる数少ない場所だったはず。文化を血液とすると、中之島は血液を送り出す心臓のような存在でしたから、中之島と宝塚の間は、阪急電車という動脈で接続され、そこには教養主義的な文化の流れがあったんです。

田浦 「手塚治虫クラシック音楽館」という本が出るくらい、手塚自身もクラシック音楽好きなんです。幼少期から中之島と宝塚という2つの街に親しむことで、教養主義的な趣味や都会への憧れを抱くようになったのですね。

近未来的街並みが少年の心に刻んだもの。

長崎 手塚作品は、異世界や架空の星を舞台にしたSFがとて多いですね。今の中之島を歩いていると、近代建築物だけじゃなくて高層ビルがよきよき生えていて、まさに手塚が描いた未来都市のような印象を受けます。

田浦 都市を描いた作品といえば、初期の『メトロポリス』はまさにそうですね。もしかして手塚作品にSFが多いのは、幼少期や青春時代に接した近未来的な街への憧れや、科学の進歩に対する素直な好感が影響しているのか

2人の若手研究者が「漫画の神様」新解釈談義！

宝塚から中之島へ、街から読み解く手塚治虫。

手塚が育った宝塚と、青春時代を過ごした中之島。売れっ子となって東京に拠点を移した「漫画の神様」をつくったのは、2つの街ではないだろうか。2つの街が担った性格が、手塚のパーソナリティや作品に与えた影響を掘り下げる。

取材文／江口由夏本誌





守るため、断固として立ち退きを拒否する家族が軍隊と絶望的な攻防を繰り返しているというのですが、結局は軍事基地

もありません。先述の朝日会館は、黒い外観のエジプト風建築。隣接する朝日ビルディングも、外装にステンレス、最上階に曲面ガラスを使用するなど、戦前としては斬新でインパクトが強い建物でした。宝塚が開発されていたとはいつても、山を切り拓いた住宅街は自然と近かったでしょう。街灯もついでにいないような、木々が鬱蒼と茂る場所に住んでいた手塚にとって、中之島はまったくの異世界だったんだと思います。宝塚から電車に乗れば、中之島はそんなに遠い街ではないだけに衝撃だったのでは。

長崎 かと思えば、文明に対する絶望を描いたような作品もありますね。中之島が未来都市に映ったとはいえ、周りをみるとまだまだ長屋だらけだった

りする。そういう「いきなり感」は、『山の彼方の空紅く』のあるシーンを思い出します。山だらけの下田舎に、いきなり軍事基地が建っている見開きのコマ。ストーリーは、自分たちの住む山

が自爆してしまうというネガティブなものです。

田浦 『モンモン山が泣いてるよ』もそう。未来都市や科学の進歩に憧れる一方、自然あふれる故郷への郷愁をこめた作品です。

長崎 実は中之島の街並みを見ると同時に、手塚は宝塚を取り巻く自然にも思いを馳せていたのかもしれない。もちろん、宝塚の住民は近代化志向の人が多かったでしょうが、けっこう自然も多い。景観が異なる2つの街を知る手塚だからこそ、文明への希望と絶望という相反する感情を持っていたのではないのでしょうか。

田浦 『空気の底』『きりひと讃歌』『奇子』など、『黒手塚』といわれているネガティブな作品がぞくぞく生まれたのは、1960年代後半から70年代前半です。ちょうど大阪で開催された日本万国博覧会（1970年）があった頃。万博という近代化のシンボルへの希望の反動もあったのかもしれない。

中之島に自分のルーツを見出した？

田浦 手塚作品はSFが多いから、物語の舞台は架空の場所がほとんどです。少年誌の連載で実在の地名を出しても、曖昧でリアリティがないパターンが多かった。でも、舞台設定がはっきりしている作品もあるんですよ。『きりひと

と讃歌』も、山崎豊子の『白い巨塔』の反響に負けじと描いた作品で、大阪大学医学部附属医学専門部時代の経験が作劇に活かされています。

長崎 そういえば『アドルフに告ぐ』には、『堂島の』とわざわざ明記された旧大阪大病院が登場していました。全編通して、主な舞台はドイツと大阪、宝塚、神戸。しっかりした物語をつくるために、自分自身がよく知る中之島や宝塚を舞台にしたんでしょうか。

田浦 『アドルフに告ぐ』は後期の名作ですね。適塾が舞台の『陽だまりの樹』と同時に並行で連載していました。

『鉄腕アトム』や『ブラックジャック』など主人公の名前をタイトルにつけた少年向け作品とは趣向を変えて、はっきり大人向けとして描いています。エロやグロの要素が入った、いわゆる『黒手塚』路線でもありません。リアリティのある舞台設定にして、大人の鑑賞に耐えうる大河ドラマにしたかったんでしょう。『アドルフに告ぐ』はある芸者の殺害現場が冒頭に出ますが、そのコマに書いてある「兵庫県川辺郡小浜村」は手塚が住んでいた住所です。実家の裏山で死んでいた設定（笑）。

長崎 読み返してみても、『アドルフに告ぐ』は手塚の総決算のような作品だと感じました。近代化の希望の象徴みたいなベルリンオリンピックから始まり、実はそれが陰謀に結びついていく。

長崎励朗 (京都文教大学専任講師)

ながさき・れお 社会学者。大衆音楽史に造詣が深く、宝塚と中之島にあった文化装置から2つの街の共通点を導き出した『「つながり」の戦後文化誌 労音、そして宝塚、万博』（河出書房新社）を上梓。ナカノシマ大学4月講座「クラブ・リバーサイドをもう一度」でもご登壇いただいた。手塚ファン歴は小学生の時に読んだ『火の鳥』から。

近代の野蠻を象徴するようなストーリーです。かつ宝塚や中之島といった実在の街が舞台になって、手塚とゆかりが深い地域が登場する。『陽だまりの樹』にしても、主人公の手塚良庵が学んだ適塾は、阪大医学部のルーツ。晩年になって自分とゆかりが深い場所を多く描いたのは、自分のルーツをたどってみようとしたのかもしれない。手塚の父親を含め、曾祖父から中之島に縁があるわけですから。

田浦 確かに地域性という点で考えると、700タイトル以上の作品からみても『アドルフに告ぐ』は重要な作品になりますね。そもそも手塚治虫と街の結びつきについて語る人が、意外と少ない。だから長崎さんの視点は面白いですね。

長崎 僕の専門ではありませんが、いま観光学で話題になっているのがアニメの「聖地巡礼」。ひょっとしたら中之島は、手塚治虫作品の聖地になる資格があるんじゃないでしょうか。

淀

屋橋北詰にたたずむポストを見たことがあるだろうか。

そのポストは赤くない。上には地球を支えるようなモニュメントが乗せられ、その下に「郵便は世界を結ぶ」と書かれている。四角く赤い箱に穴が開いている、普段よく目にするデザインのものとは明らかに違う。

ポストの横にある石碑には、こう記されている。「明治四年わが国で初めての新式郵便がおこなわれたとき、市内の書状はここに設けられた郵便役所へ集められ、東京までの各地へ発送された。」「新式郵便」とは、現在のようにポストに切手を貼って投函すれば、宛先に郵便物が届く仕組みのこと。それまでの飛脚便に代わる制度が明治4年（1871）に定められ、その重要拠点が中之島にあったわけだ。

明

治維新と共に新設置された役所の一つに、「駅通司」というものがあった。通信や交通、運輸を取り扱う役所で、この長官を務めていたのが、後に近代郵便制度の祖と言われる前島密だ。仕事を始めた前島は、すぐにある事実には驚くことになる。何しろ飛脚代が、莫大だったのだ。

飛脚が書状を運んでいた江戸時代、



贅沢にも金色で塗られ、遠目に見るとポストと気づかない人もいるかもしれない。

郵便制度の歴史を刻む、 ポストがあつた。

彼らは各街道に置かれた宿場から宿場へ、リレーのバトンのように書状を引き継いで各地に配達した。明治維新後もしばらくは、政府の公文書も今までどおり民間の飛脚業者によって運ばれていた。そこに割り当てられた政府の

通信費は、月額1500両ほど。しかも日数がかかるばかりか、天候によっても配達状況は左右され、遅配が多いという問題があった。

そこで前島は、通信の仕組みを視察するために、イギリスへ渡った。そこ

で行われていたのは、郵便物を一ヶ所の窓口を集め、全国均一の料金で配送する近代的な国営郵便制度。安全で確実な情報のやり取りが、国をいっそう豊かにしているのではないか？ 莫大な飛脚代を元手に、いっそ新しい仕組



かつて大阪郵便役所があったことを示す石碑。

みをつくった方がいいのではないか？

そう考えた前島は、イギリスの郵便制度を見本にした案を打ち出した。

そ

して明治4年、現在の中央郵便局にあたる郵便役所が国内の3ヶ所に置かれた。東京、京都、そして大阪。大阪郵便役所は、前述の石碑に記されている通り、淀屋橋北詰のあたりに設置された。

イギリスにならない、郵便物に貼る切手も初めて印刷された。当時の東京

大阪間の最低料金は約15銭。明治4年の新貨条例により1両＝1円となったが、1銭＝40～100円とすると、600～1500円程度となる。初日に大阪から差し出された書状は19通。東京・大阪間ならば、75時間程度で届けることができた。飛脚使時代から考えると、およそ半分以上の短縮になった。

郵便役所設置と同じくして、役所周辺の各地にはポストが置かれた。大阪では中之島の郵便役所前をはじめとして、本町橋西詰、安堂寺西詰（現在の松屋町あたり）、阿弥陀池表門前（同北堀江）、雑喉場（同江戸堀）、常安橋北詰（同中之島4丁目）、源左衛門街（同南御堂前）、天満天神の8ヶ所。収集の都合のためであろう、郵便事業創業

時の大阪のポストは、中之島周辺に密集していた。

「書状集箱」と呼ばれた当時は、おなじみの赤い金属製ではなく、木製のもの。1日1回の手紙の収集が終わったあとは「出発済」と書かれた木札がかかっているデザインのものもあつたというから、意外に現在より親切設計だったのかもしれない。新しい郵便制度の宣伝のため、ポストの脇には「郵便」という文字が染め出された旗が立てられたそう。

現

在、このポストは日本銀行の敷地内に設置されている。冒頭で述べたデザインは昭和46年（1971）に採用されたもの。近代郵便制度の開始から100年を記念する式典が、大

阪市立中央公会堂で挙行されたのを記念してつくられた。

大阪の郵便創業史に関する資料は少なく、このポストがつくられた当時も、そもそも設立当初の郵便役所がどこにあったのか意見が割れていた。民間の研究者の助言を受けながら、郵便役所の位置を淀屋橋北詰と特定し、ポストの設立位置を決めたそう。ちなみに、郵便制度創業時に置かれた東京郵便役所（現在の日本郵便局）の前にも、同じポストが置かれている。

このポストと石碑をのぞいては、当時の郵便役所の面影を残すものはない。それでも大阪の郵便制度は中之島から始まった。その証が、このアートなポストだったのである。

『月刊島民』×書店の連動企画 「おもろい、医者と医学の本」フェア、お立ち寄りありがとうございました。

久坂部羊さんの日本医療小説大賞受賞を記念し、『月刊島民』6月号で開催告知していた書店とのスペシャルコラボ企画。6月から1ヶ月間の開催期間中、各店内では様々なスペースや棚で、思い思いに展開していただいた。久坂部さんと級友・仲野徹先生セレクションの本に加え、『廃用身』や『破裂』など久坂部さんの著書を並べてくださった書店員さんも（ありがとうございます）。笑いあり、涙あり、シリウスありの選書ラインアップに、手に取った島民読者のみなさんは「医学って難しそうだし、読むには専門知識が必要なのでは？」という先入観が吹き飛んだのではないだろうか。



MARUZEN&
ジュンク堂書店
梅田店



ジュンク堂書店
梅田ヒルトンプラザ店



ジュンク堂書店
大阪本店



紀伊國屋書店
グランフロント
大阪店



紀伊國屋書店
本町店

笑う落語の大阪

第四回 高島幸次

天神寄席の五月席「経済は落語より奇なり」は、補助席を出すほどの大盛況でした。厚く御礼申し上げます。



買物ネタ三席の後の鼎談では、桂米團治師匠が軽妙なジョークで大受けし、大竹文雄先生（阪大教授）も経済学の立場からのネタ分析で笑いをとる。私も刺激を受けて、ネタの背景を披露しました。そのあらましを以下に再録します。

私のように日本史を専攻していると、古典落語を手放しでは楽しめない。気が付くと時代考証をしてしまっている。今

落語を楽しめない性

も「はてなの茶碗」を聴きながら「茶金」こと茶道具屋の金兵衛は実在したのか、鴻池善右衛門が茶碗を見せた関白の「鷹司公」とは誰がモデルかと考えていた。数ある公家の中でも、摂政・関白に任官されるのは、近衛・九条・二条・一条・鷹司の五摂家だけ。架空の関白なら、本家筋の「近衛公」でいいのに、なぜ分家筋の鷹司公なのか…？

そうか、鷹司政通だ！ と思いついた。江戸時代の関白の多くは数年で辞めるのに、政通は江戸後期の30年以上にわたって関白を務めた。異例の長期政権だ。幕末の京や大坂の町人衆にとって、関白と

いえば政通だったのだ。とすると、茶碗の箱書を書かれた「帝」は、仁孝天皇か孝明天皇だ。

嘶のオチでは、油屋が「今度は十万八千両の金儲け」と言いながら水壺を茶金に持ち込む。この「十万八千両」は、政通と同じ時代の世相・風俗の記録「浮世の有様」を踏まえているに違いない。同書は、小塩貞八（実は大塩平八郎）が、山中屋（実は鴻池 善右衛門宅を襲い「十万八千両」を奪ったと記録する。「貞八」は「デイハチ」と読んで平八郎に響かせ、「山中屋」は鴻池の祖先の山中鹿之助を

思い起こさせる。

ということとは、この嘶の真のオチは、鴻池が茶碗に続いて、水壺に「十万八千両」を支払う場面が思い浮かぶところにあるのかもしれない。もちろん、「十万八千両」を、素直に「なんと法外な高値！」と笑うのもいいし、「煩惱の百八つか」とほくそ笑むのもありだ。

優れた古典落語には、このように重層的な笑いが仕掛けられている。

たかしまこ

大阪大学招聘教授、追手門学院客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

※7月25日は天神祭のため、天神寄席はお休みです。8月をお楽しみに。

繁昌亭の名物企画、天神寄席の8月は？

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。新シリーズでは、落語だけでなく、高島幸次先生や月替わりの豪華なゲストスピーカーによるトークも加わる。8月は日本語研究の専門家、金水敏先生と二緒に落語の言葉の面白さを考える。

●8月のお題は「言葉」

8月25日(月)

「落語の言葉・仕草をカイボウする！」

ネタ／笑福亭喬若「野ざらし」

鼎談／桂春之輔「上方落語協会副会長」

桂あやめ「格気の独楽」

金水敏（大阪大学教授）

桂梅團治「いかけ屋」

高島幸次（大阪天満宮文化研究所）

桂春若「天狗裁き」



落語のトリでは桂春若さんが古典の大ネタ。



桂梅團治さんは師匠譲りの「いかけ屋」で。



紅一点、桂あやめさんの「格気の独楽」にも注目。

ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得！

「天神寄席」の前売チケットをナカノシマ大学で買うと、1800円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じく、ウェブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日／8月25日(月)

時間／6:30 PM（開場6:00 PM）

受講料／1800円（通常…前売2000円／当日2500円）

支払い方法／当日、現地にて精算

販売期間／8月24日(日)7:00 PMまで

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP15を参照してください。

●問い合わせ ☎0647991340

「大阪の本屋発行委員会」立ち上げ記念スペシャル・トークセッション

“本屋のない街なんて、つまらない”

西加奈子(作家)×三島邦弘(ミシマ社代表)

進行:山ノ上純(大阪の本屋発行委員会・ダイハン書房)

8.3(日)
2:00PM



西加奈子と
地元の本屋

大阪の本屋発行委員会／編
定価380円(税込)

イラスト／ザ ロケット ゴールド スター

大阪の本屋さんが自分たちで、本を作りました。
それを記念して、書店好き2人が大いに語る!

日本には多くの方言があり、その土地で食される食べ物があるように、その土地固有の文化を持つ地域「地元」があります。なのに、日本全国の読者に共有されていく「本」の一冊を手にとっても、表面的には「地域性」はほとんど感じられません。しかし、その本が生まれた場所、その本を生み出した人、そして本を販売する本屋も、既にその「地元性」を含んでいて、それらは一冊一冊の創られ方・売り方・読まれ方に色濃く反映して、独自の物語を生んでいるのではないだろうか。そうしたことに気がついたのは、毎日毎日その「本」を扱い、読者に届けてきた書店員や本の流通に携わる取次(出版販売会社)の現場担当者でした。

一冊の本の持つ奥行きや地元性を、ナマモノに触れるように敏感に感じている書店員たちが、自分たちで地元の本をつくったらどんな本ができるのだろう。そうやって大阪の書店員有志と取次(販売会社)が立ち上がった一つのプロジェクトが「大阪の本屋発行委員会」でした。

そんな熱い思いを持つ大阪の本屋発行委員会が企画・編集・執筆した記念すべき第一作が『西加奈子と地元の本屋』(6月13日発売・140B)。大阪出身である作家・西加奈子さん原作の映画『円卓 〜こっこ、ひと夏のイマジン』公開にあわせて、「地元の作家」を全力で応援したいという思いが詰まった一冊です。

その発刊を記念して、西加奈子さんと、書店員を題材とした本でも話題を呼ぶ出版社の代表で、業界の風雲児であるミシマ社の三島邦弘さんを迎えたトークセッションが開催されます。進行を担当するのは、大阪の本屋さん。お二人と本屋との関係は? 影響を受けた「地元生まれの本」は? 大阪生まれの作家である西加奈子さんの作品の魅力とは…。「本」と「本屋」、そして「地元」を愛するすべての人に必聴のトークセッションです。



西加奈子(作家)

1977年イラン・テヘラン生まれ。小学5年から26歳までを大阪で過ごし、2004年『あおい』でデビュー。2007年『通天閣』で織田作之助賞、2013年『ふくわらい』で第1回河合隼雄物語賞を受賞。「話言葉」としての大阪弁が、肌で感じるような生々しさと独自の軽快なテンポを生み、既存の「大阪文学」とは異なるジャンルを生み出したストーリーテリングの名手。大阪の書店では、作品のみならず、西さんの飾らない人柄にもファン多数。独特の言語感覚が炸裂するトークでは、作品とはまた異なる西さんの魅力に触れられるはず。



三島邦弘(ミシマ社代表・編集者)

1975年生まれ。2つの出版社を経て、31歳の時に一人でミシマ社を立ち上げる。現役書店員6名へのロングインタビューを収録した『善き書店員』(木村俊介著)や、365人の書店員が「この本だけは、どうしても届けたい」と思う一冊を紹介する『THE BOOKS』など、本屋さんに對する深い愛から生まれた書籍も。そして、西加奈子さんの大ファンでもあることから、今回の対談では本屋愛と西加奈子愛が炸裂する予定。著書に『計画と無計画のあいだ「自由が丘のはがらかな出版社」の話』(河出書房新社)。

進行:山ノ上純(大阪の書店発行委員会のメンバー)

1971年京都生まれ。ダイハン書房本店勤務。学生時代のアルバイトは書店、大学卒業後は広告代理店に就職したものの、時を経て再び実家の本屋さんに舞い戻る。大阪の書店発行委員会の立ち上げから、『西加奈子と地元の本屋』編集にもどっぷり参加。当日は、現役の本屋さんとして、お二人に質問を投げます。

「大阪の本屋発行委員会」立ち上げ記念 スペシャル・トークセッション

日時/8月3日(日) 2:00PM~4:00PM(開場1:30PM)

場所/日販堂島ビル5階会議室(大阪市北区堂島2-1-7)

料金/1,500円 定員/100名

主催/大阪の本屋発行委員会

協力/日本出版販売関西支社 トーハン近畿支社 大阪屋
ナカノシマ大学事務局

●参加方法 お名前・ご住所・電話番号を明記のうえ、下記までハガキ、ファックス、もしくはナカノシマ大学HP(<http://nakanoshima-univ.com/>)内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては複数名(2人まで)でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添えください。
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F 株式会社140B「大阪の本屋」係
FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2014年8月講座

「島民のための 盆踊り練習会」

出演／天龍小若丸（音頭取り）かわち撫子会
松井幸一（河内音頭研究家）

河内音頭のひとつも踊れなくては、
大阪の夏は楽しくない。
レクチャー&踊りの練習で、
イチからみっちり教えます。

そろそろ夏本番。8月ともなれば、公園では櫓を
建てる準備が進み、街なかでも盆踊りイベントが目
白押し。風情があってええわというあなたに聞きたい。
「踊れるんですか？」と。せっかくなら楽しく踊って満
喫したいというわけで、河内音頭の本場・八尾市か
ら講師をお招きし、練習会を開催することになった。

盆踊りは日本全国各地で行われているが、大阪で
はやはり河内音頭が踊られることが多い。講座では
まず八尾市在住の河内音頭研究家・松井幸一さんが、
河内音頭の歴史とその広がりについて解説する。そ
の後は練習タイム。音頭取りの師匠や踊り手のみな
さんをお手本に、実際に踊って覚えよう。

基本の動作をマスターしておけば、河内音頭なら
たいていの曲は踊れるようになる。ご近所の盆踊り
大会もさらに楽しめるはずだ。



音頭を取ってくれるのは八尾本場河内音頭連盟副会長でもある天
龍小若丸師匠（左）。踊りの指南はかわち撫子会のみなさん。また、
講師の松井幸一さんは元八尾市職員。根っからの八尾人である。

いよいよ
シーズン到来！

◎今月の授業①

【河内音頭】



会場となるのは堂島浜の古河大
阪ビル本館の屋上。オフィスビル
での盆踊りだ！

覚えたら、ここで踊ろう！

「中之島なまつり」

8月28日（木）、河内音頭家元・河内家菊
水丸を迎えて大阪国際会議場で大盆踊
り大会が開催される。覚えたての踊りを
自慢できるチャンス！ 詳細は次号を見よ。



「島民のための盆踊り練習会」

日時／2014年8月5日（火）

6:30PM～8:00PM頃（開場6:00PM～）

会場／古河大阪ビル本館 屋上

入場料／2,000円

定員／50名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／八尾市 八尾本場河内音頭連盟

募
集
要
項

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もし
くはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスに
ついては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してく
ださい。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ず書き添え
下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学8月講座①」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。



◎今月の授業②

2014年8月講座

【古地図】

「古地図ウォーカー、大阪をゆく」

第7回「ミナミ」とはなんだ?

講師／本渡 章(作家)

古地図をヒントに
大阪の地名を考える



今月の1枚
「大大阪区勢図
最新の南区」
かつて大阪市には「南区」という区があった。現在は中央区の一部だが、江戸時代の大坂三郷南組以来の歴史をもち、いわゆるミナミもこのエリアにすっぽり入っている。この地図は昭和13年(1938)発行。
所蔵／大阪市立中央図書館

難波に心斎橋に千日前、さらに島之内…。「ミナミ」のルーツはどこにあるのか?

「ミナミ」と聞いて、まずピンとくる場所はどこだろう。①難波②心斎橋③千日前④島之内⑤アメリカ村。どれを選ぶかで、その人のキャラクターが見えそうなくらいに、ミナミは個性的なエリアの集合体だ。

なにしろ歴史の奥行きが深い。ルーツは江戸時代の前期にまでさかのぼる。それからざっと400年近く、共通点も多いが背景のそれぞれ異なる複数のエリアが、競い合いつつ変貌をくりかえし、ミナミと呼ばれる遊び場はかたちを変えながら

広がってきた。

いくつもの中心をもつミナミのたどってきた道をふりかえるためには、やはり古地図は頼りになる手がかりだ。ミナミのルーツはどこにあるのか、古地図を手にして街を歩きなおしてみたい。

募集要項	「古地図ウォーカー、大阪をゆく」第7回 日時／2014年8月21日(木) 7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～) 会場／追手門学院 大阪城スクエア 受講料／2,500円(資料用大判古地図付き) 定員／120名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／関西・大阪21世紀協会	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学8月講座②」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。
------	---	--



かもめ船長の 水辺航海日誌

六月〇X日

夏の夜の水辺。

「夜目」と「遠目」

船に乗って眺める街は、普通に陸上を歩くのと比べて、明らかに魅力的に映る。大大阪時代の建物や橋は川からの視線も意識してデザインされていて「云々」という模範解答では説明しきれないこの感じ。



イチ押しは玉江橋のライトアップ。

が歩くキャットウォークとか相撲の棧敷席とか、そういう非日常なところ。ワクワク感が増すとかそういう心理効果があるのだろうか。

あと「遠目」ということもありそう。水上だといつもより距離を取って街並みと向かい合うことになる。橋、高架道路、ビル。普段は至近距離で個々にしか見えないものが、重なりあって見える。例えるならジオラマの中に入り込んだような、そ

んな印象がある。

そしてもうひとつ、船から見るとより楽しいのが「夜目」。モノによつては「お化粧」の域を超えて「化ける」勢いのライトアップされた街の夜景だ。

中之島の水辺は夜に咲く。

中之島の夜景はこの数年かなり様変わりした。新しい超高層ビルはもちろん、戦後に架設された橋から護岸壁に至るまで、昼間には気にも留めなかったアレやコレが、夜になると「私も私も！」と光りだす。昼夜の風景のギャップはかなりのものだ。僕の主観に基づいた「夜に咲く」風景を3つご紹介すると…。

第3位、中之島ガーデンブリッジ。第2位、阪神高速環状線の橋脚。第1位、玉江橋。

この3つ、昼間にガイドする際は、残念ながら優先順位の低い風景なのだけれど、夜になると断然存在感を放つ。中之島には堂島大橋など名作の照明デザインが並ぶが、夜にグッと魅力が増すのはこの3つだと思う。ちなみに、潮位の影響で低い橋がくぐれないことがあり、これらの橋に夜は



夜に見る阪神高速の橋脚は幻想的だ。

近づけない場合があるのでご注意を。

そんな中之島の洒落た明かりと道頓堀の絢爛な明かりを見比べるのも水都の夜景の面白さ。昼と夜、中之島とミナミ、新と旧。この街の景色は本当によく表情が変わる。まさに大阪的だなあと感心する。

水上夕涼みのススメ。

というわけで、やっぱり「一度水上に出てみて感じてください」となる。涼しい川風も、岸とはまるで体感が違う。冷房に慣らされた身体には不思議に心地よい涼しさだ。

夜景を照らしてキラキラしている水面の眺めもなかなか涼感があると思う。なんとなく「ギラギラ感」があつて「暑苦しい」イメージのこの街。「大阪って思ってたよりいいところだったんですね」という感想をよく耳にするのは、この季節だったりする。



中野弘巳 御舟かもめ船長
なかのひろみ 中之島をはじめ大阪の水辺をクルーズする小さな遊覧船「御舟かもめ」船長。夜の水辺の景色を満喫できる「パールコース」は中之島と道頓堀を50分で結ぶ。
<http://www.ofune-camone.net>



昼は地味な中之島ガーデンブリッジもこの通り。

トウニン月報

2014年7月1日発行

2年ぶりに中之島に帰ってきた 「レゴ®ブロック」で作った世界遺産展



©PIECE OF PEACE
LEGO, the LEGO logo and Minifigure are trademarks
of the LEGO Group. ©2014 The LEGO Group.



「地球のたからもの」である世界遺産を、世界中で親しまれているレゴ®ブロックで作るアート展が始まったのは、2003年のこと。第1回から日本十数ヶ所で巡回開催され、第3回となる今回はワールドツアーも実施。その入場料やグッズ売り上げは、日本ユネスコ協会連盟が行う世界遺産活動へ寄付されることから、各業界の著名人が賛同や参加の声を挙げるチャリティーイベントでもある。

前開催時から新たな世界遺産作品が加わり、27ヶ国40のレゴ®ブロックアートが大阪会場に集まる。日本で初めて文化遺産として登録された姫路城や、2013年に登録されたばかりの富士山のデフォルメされた姿は必見だ。もちろん、ニューヨークの「自由の女神像」や、モスクワの「クレムリンと赤の広場」も会場を彩る。巨人になった気分です世界一周を楽しもう。

PIECE OF PEACE
「レゴ®ブロック」で作った世界遺産展part3
期間／7月19日(土)～8月31日(日)
会場／堂島リバーフォーラム
時間／11:00AM～8:00PM
(入場は7:30PMまで)
入場料／大人400円(中・高校生含む)
小学生200円 小学生未満無料
問い合わせ ☎06-6341-0115(堂島リバーフォーラム)
<http://www.pofp.jp>

夏休み、子どもたちに混じって遊ぶ絶好のチャンスだ。
(江口由夏・本誌)

船上での生演奏が贅沢な 大阪水上バスの「ミュージックボート」

船上で生演奏を聴きながら乾杯できるクルーズが運航していると聞き、さっそく乗り込んでみた。ミナミで35年以上レコード店を営む、「ザ・メロディ」店主の森本徹さんプロデュースのこと。

河本萌さん(Vo)の歌声は一昨年のクルーズでも大好評だったそうで、その日はしっかりとしたカバースングからスタート。続くミュージカルナンバーをBGMに、船は東へ。難波橋の上や川床テラスから、



思い思いに夜を楽しむ島民たちが手を振ってくれる。サビの盛り上がりどきには剣先公園の巨大噴水が放水され、ライトアップをいっそう美しく

大阪水上バス「アクアmini ミュージックボート～CDショップメロディズベッセル～」
運航日／7月18日(金)、8月15日(金)、9月19日(金)、10月17日(金) ※雨天中止
時間／第1便7:00PM～ 第2便8:00PM～(各便約40分間)
料金／2,000円(ワンドリンク付き)
場所／淀屋橋港発着
問い合わせ ☎0570-03-5551
(大阪水上バス・9:00AM～5:00PM)



大正時代の船場が甦る 三休橋筋にガス灯が点灯

御堂筋と堺筋の中間にあり、大阪市中央公会堂前から南に伸びる三休橋筋。船場の中央を走るこの通りには、綿業会館を始めとする近代建築や町家が並ぶ。6月3日(火)には沿道に設置された55基のガス灯の点灯式が実施され、レトロな街並みに華を添えた。

かねてより大阪市が取り組む都市計画の一環として、道路整備や電線の中地化が進められてきたエリア。昨年ようやく、電柱の撤去が完了した。

「大阪ガスからのガス燈寄贈をきっかけに2005年から整備が始まり、ようやくお披露目できました」と、三休橋筋商業協同組合の岡本浩典さんは感慨ひとしお。電線が無いだけで、近代建築が生き返ったように見えるからなんとも不思議だ。

これからは、毎日夜7時から11時まで点灯すること。ガス灯がある街の美しさを味わうために、ぜひ暗くなってから現地に足を運んでほしい。

(江口由夏・本誌)



「料理として素材を見つめ、ジェラートに変化させる」
「ラッフィナート」のオーナーシェフ・小坂武^{あむ}さんは、この店で目指すジェラートづくりについてそんな風に話す。それはどういう意味なのだろう。
ジェラートの材料は牛乳や卵、あるいは果物など実にシンプル。それだけに、素材の味がダイレクトに反映されることになる。小坂さんが一番重視しているのもこの部分だ。
「産地、品質、鮮度。とにかく素材にこだわり、その味を活かし切ることですね」

素材を活かし切る、「料理」としてのジェラート。

【パール&ジェラテリア ラッフィナート】 ●ジェラート



ショーケースの中は-12℃に保たれている。食感が命のジェラートにとって、温度管理はとても重要。パニラ系、チョコレート系、フルーツ系などジェラートは18種類。季節によって新しいものが登場する。これからの季節の楽しみはブドウや桃など。

例えば、ブラッドオレンジなど柑橘類を使ったジェラートなら、単にビュレにするのではなく、果肉を少し残したり、皮を混ぜ込んで、んだりといった工夫が凝らされている。こうすることでフルーツの持つ味わいや香りを存分に楽しむことができるのだ。「メイヤーレモン&ヨーグルト」でも、レモンの



ジェラートは一番人気のピスタチオ(右)、プレミアムミルク(左)、そしてストロベリー。

マルメラータ(ジャム)と一緒に入った黄色い皮が、見た目にも食感にもいいアクセントになっている。一番の人気という「ピスタチオ」は、シチリア産のピスタチオを店で焙煎し、ペースト状にしたものを使う。口溶けのいい自然な甘さはもちろん、ピスタチオの実そのままの自然な色を見ても、素材に対する姿勢がうかがえる。
「ラッフィナート」が本来はリストランテであることも、こうしたこだわりを支えている。この店の他に芦屋で2軒、大阪で1軒の店を構え、そこで培ってきたネットワークや知識があるからこそ、良質の素材や新しいものに巡り会うことができるわけだ。
素材を重視し、その良さをさまざまな方法によって引き出すこと。あるいは季節感を大切にし、旬のものを取り入れていくこと。これらは料理に対する日本的感性かもしれない。「料理として」という小坂さんの言葉はこういう意味だったのだ。
そして、こうした感性でジェラートをつくっていることが、「イタリアのジェラテリアよりも絶対に美味しい！」と胸を張る自信にもなっている。

祝 祭 へ よ う こ そ 。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供/株式会社 朝日ビルディング



パール&ジェラテリア ラッフィナート

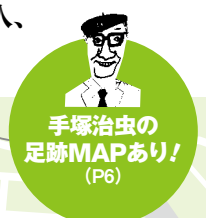
●中之島フェスティバルタワー B1F

ジェラテリア(ジェラート専門店)とパール、イタリアの食文化を気軽に楽しむことができる。ジェラートは好きなフレーバーを選ぶことができ、2種類で470円、3種類で570円。コーヒーと一緒に楽しむのがおすすめで、店内のパンコ(立ち飲みカウンター)で飲みばドリンクは50円オフ。パニーニなどの軽食やアルコールも。

☎06-6228-3444 9:00AM~10:00PM 不定休

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店]旭屋書店 梅田地下街店／カベラ書店／紀伊國屋書店 梅田本店／紀伊國屋書店 グランフロント大阪店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛塚書店 大江橋店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など]アイスポット／朝日カルチャーセンター 味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
- [店舗・医院など]アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO(オー)／カセッタ／喫茶カウンター／喫茶SAWA／クラフティート中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・プロディ／シアトルベストコーヒー新聞電ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院 大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／バスターレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイルムハウス／ミニジロー／宮 崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／ラックカーニャ／LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店]大阪書店／紀伊國屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ループル書店 [公共施設・大学関連施設など]大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 [店舗・医院など]あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御舟かもめ／Cabo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワナ／バルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂／Books 呼文堂／水嶋書房 くらげモール店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画広報・学芸連携事務局／大阪大学 21世紀記憶館／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンボン／百録／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 上を向いて歩こう。

ビルの屋上がにぎやかになって、島民の仰角が上がり始めるこの季節。
行って楽しい見て面白いビルの屋上、そして中之島の空を見上げてごらん。

●『月刊島民』vol.73は2014年8月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狹健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

みんな、みんなの、おけいはんです。

あのモールやレジャースポットも、
街なみも、電車もバスも、
あなたの毎日のそばに、京阪グループ。



|| 京阪グループ || (運輸) 京阪電気鉄道 叡山電鉄 京福電気鉄道 京阪レジャーサービス 中之島高速鉄道 京阪ステーションマネジメント
京阪エージェンシー 京阪ライフサポート 京阪バス 京都京阪バス 京阪京都交通 ケービー・エンタープライズ 江若交通 ザ・コジャック 京都バス
ケーター自動車工業 (不動産) 京阪カインド 京阪電鉄不動産 イースタン興業 京阪アセットマネジメント 京阪エンジニアリングサービス
京阪産業 かんこう 文化財サービス 京阪園芸 (流通) 京阪流通システムズ 京阪百貨店 京阪友の会 京阪ザ・ストア 京阪レストラン
ジューサーバー・コーポレーション (レジャー・サービス) 琵琶湖ホテル 琵琶湖ホテルサービス ホテル京阪 京阪アーバンシステムズ 京阪リゾートシステムズ
京都タワー 京都センチュリーホテル 琵琶湖汽船 琵琶湖汽船サービス びわこフードサービス 大阪水上バス 比叡山鉄道 樟葉パブリック・ゴルフ・コース
比叡山自動車道 ガーデンミュージアム比叡 (その他) 大阪マーチャндаイズ・マート 京阪ビジネスマネジメント 京阪カード はちけんや